

～ご入園、ご入学おめでとうございます～

令和6年2月24日
後援会会長 畑中龍太郎

1. 挨拶と自己紹介

(1)はじめに

「ご入園、ご入学おめでとうございます。」後援会長の畑中です。このような機会をいただき、ありがとうございます。よろしく、お願いいたします。事務局の皆さま、スクリーンを用意して頂き、ありがとうございます。おかしな器具を顎に当て、非常に聞きづらいと思いますが、暫くお付き合い下さい。

一昨年9月に、偶々、胃カメラで、ステージ4の大きな咽頭がんが見つかり、手術を受けました。命は助かりましたが、咽頭や喉頭など、いわゆる「喉」の部分を、全部切除摘出したので、呼吸や食事が不自由になったほか、自分の肉声を失いました。今、この黒い筒のような、振動音を出す器具を、顎に当てがって、その音を顎全体に増幅・共鳴させて、少しでも人の声に似た音を出そうとしています。

皆さまには、ご迷惑をお掛けしますが、暫く、我慢をして聞いて下さい。

(2)略歴、学園との関わり

①略歴

私は、畑中龍太郎と申します。1952(昭和27)年12月6日生まれの71歳です。職歴は、国家公務員42年、うち外交官5年、民間企業3年。妻無し、子供3人、孫5人。

②学園との関わり

私とこの学園との関わりですが、孫娘2人が幼稚園からお世話になり、下の方は今中学1年生です。その母親である私の娘が45回生、そのまた母親、つまり私の家内が21回生です。6年半前に他界した家内がこの幼稚園に入園したのが1959年ですので、爾来(じらい)65年、三代に亘りお世話になっております。そういう意味では、私も、皆さま同様、紛れも無く、雙葉ファミリーの一員でありまして、この長く深い御恩に少しでも報いたい、という強い気持ちを持っております。

2. 後援会と保護者研究会

それでは、先ず、後援会と保護者研究会の活動等について、概略をご紹介します。

[A. 後援会]

先ず、後援会ですが、

①第1は、皆さま保護者全員が「会員」です。役員は20名程度で、任期は1年で、再任はOKです。皆さま方にも、そのうちお願いすることになると思いますので、その折には、よろしく願いいたします。

②第2は、この後援会の目的ですが、「学園の教育活動を援助する」(第3条)ことです。そして、そのために、

(イ)学校行事に関する援助

(ロ)学校のハード面、ソフト面の活動のための協力援助(例:百周年事業)

(ハ)この田園調布雙葉ならではの活動かもしれませんが、「会員相互の修養ならびに親睦を図るために必要な諸行事」などを行います(会則第4条)。

この3番目の活動が、次に述べます保護者研究会の活動を特徴づけているというか、後援会が保護者研究会の活動を支援する根拠です。

そして、③原則、年1回は総会を開いて、会則の変更などの重要事項の審議・決議を行ったり、活動や事業や会計の各報告を受けたりします(会則第6条、9条文)。

[B. 保護者研究会]

一方、保護者研究会は、

①「後援会活動の一環として活動する」もの(後援会活動の中核を担うもの)とされており、

②その目的は、「カトリックの精神や教育観などについて学び、人の生き方を考える機会とするとともに、親睦の集まりとする」ものです(実行委員会内規第2条)。

[また、③この保護者研究会には、実行委員20名程度と実行委員長を置くこ

ととされ、

(イ)月例講話、(ロ)父親合宿、(ハ)クリスマスミサ、(ニ)父親親睦の会(いわゆる「梅見の会」)、(ホ)新入生保護者オリエンテーションなどを行います(同内規第3条、4条)。]

後ほど、小仲・実行委員長から、詳しく説明があると思います。

それでは、せっかくの機会ですので、戴いた時間を活用して、皆さんと同じ後援会の会員の一人として、また、元保護者の立場から、皆さんに、アドバイスやお願いしたいことを、数点申し上げたいと思います。3つのエールをお送りします。

3. 皆さまへのお願い

(1)「教育の責任は誰に」

1つ目。まず、皆さまに一つ質問をさせていただきます。皆さまは、何故、お子様を雙葉に入れようとされたのですか？……あなたの雙葉への期待を想像してみます。それは、「長期にわたる一貫教育だから」ではないですか。

12年、14年の長期にわたる一貫教育だから、雙葉に長期間預けたら、学業の面でも、情操の面でも、さぞや立派な子供に育ててくれるだろう。受験地獄とは無縁だし、知らない学校への進学も無いし、落ち着いた環境の中で学校生活が送れ、良い友人にも恵まれるだろう。そう思っておられるのではないですか？

しかし、学校に行くだけで、都合良く、直ぐそんな風になるのでしょうか？……簡単にはならないですよ。何故なら、個性豊かな1,500人を超える子供たちの教育を「丸投げ」されても、この先生方が100%皆さまの期待に応えることは、物理的に無理だからです。

皆さま、ご自分のお子さんを育てながら、その10倍、20倍、30倍の子供たちを、満足行くように育てられるか、考えてみて下さい。

ですから、入園・入学に際しては、学校や先生方に対する「過剰な期待(過度の期待)」は捨てることが第一歩だ、ということを、先ず申し上げておきます。

それでは、一体、誰が、先生の穴を埋めるんだ？と仰るでしょう。言葉を替え

れば、子供の教育を担う責任を負うのは誰か？

「子供は、親がかけた愛情に比例して豊かになる」と申します。また、「子供は、親が勉強すれば、自然に勉強するようになる」とも申します。つまり、子供の教育の「主役」はその子の親です。子供の教育の「責任」は親にあります。学校は、それを補助し、刺激を与え啓蒙し、競争環境などを整備する「脇役」に止まります。ですから、皆さま、全身全霊を傾けて、ご自分の人生の全てを注ぎ込む覚悟を持って、お子様に向き合ってください。

そして、何があっても、子供がどんな逆境の中にあっても、子供を信じてやって下さい。子供は必ず起き上がります。何故なら、あなたの子供だからです。しかし、これは、仕事の何倍も大変で難しいことです。

今日は、ぜひ、その覚悟を持ってお帰り下さい。

余談ですが、子供を育てる「喜び」は、親に与えられた「特権」でもあります。しかし、それが本当に分かるのは、子供が成長し、巣立って行って、初めて分かります。親が子供を育ててやっていたのではなく、実は、子供に育てさせてもらっていたのだと。それほどに、得難い、かけがえの無い貴重な時間をくれたのだ、ということが、その時初めて分かります。今の皆さまには分からないでしょうが、いずれ、必ず分かります。

ですので、皆さま方、どうぞ、「かけがえの無い、手塩にかけたお子様方と、ご一緒に歩んで行って下さい。」

(2) 6年間(8年間)を大切に

第2。この小学校の6年間、幼稚園からの場合は8年間を大切になさってください。よく、「心・技・体」と申しますが、この6年間、或いは、8年間は、このうちで最も大事な「心」の生育を決定づける時期だからです。「技(知識の習得)」はその後でも出来ます。[体(身体の維持・鍛練)]は死ぬまで続きます。私のような高齢者になれば、「体(身体の維持・鍛練)」は若者より真剣です。

しかし、この「心」の生育は、この時期(6年、8年の間)に基本が形造られる、その後では取り返しがつきません。そして、この学園は、教育の基軸・教育の基本を、そこに据えています。

昭和16年から平成9年まで56年間、本学園を創設し本学園と共に歩まれたシスター村越は、退任の挨拶でこう仰いました。

「神様から与えられた能力を磨き、神のみ旨(むね)に従って他人(ひと)を愛し、助けることの喜びと大切さを知る人間づくりの建学の精神が、さらに強められ、発展していくことが私の唯一(ただひとつ)の願いでございます。」と。

この「人づくり」という教育理念と、その実践のひたむきさが、この学園の根底にあることを、ぜひ、ご理解いただきたいと思えます。

ですので、皆さま方、どうぞ、「お子様方の生育に全身全霊を傾けているこの学園と、一緒に歩いて行って下さい。」

(3)お父さまが「主役」

3点目。最後に、後援会、保護者研究会の特色として、活動主体が皆さま方、お父さまだということを申し上げます。

ここは、不思議な学園です。他の雙葉姉妹校よりも、ずーっと父親の存在が大きい学舎(まなびや)です。

何故なのか？

時代を遡ります……。終戦直後の、お金はおろか、食べるものにも事欠いた昭和20年代以降、この学園の幼稚園・小学校・中学校・高校の全てを、短期間で、建築・整備されたのは、創立者シスター村越の類い稀なるリーダーシップと、お父さま方の驚くべきパワーがあったからです。

そして、そのパワーの源は何だったのか。それは、この学園の教育理念・教育方針に対する深い理解と共鳴があったと思うのです。

この「人を育てる」、「人間づくり」という田園調布雙葉学園の創立から一貫した不変不動の教育理念～建学の精神～と、その実践こそが、お父さま達をして、(自分の子どもが可愛いからという思いを超えて、)深く共感させ、強く共鳴させたからではないかと思うのです。

加えて、私は、学園やシスター方には、子ども達や学園の近くに、お父さま方に居てほしいという願いがあるからではないか、とっております。この学園やシスター方の願いが、昭和53年の保護者研究会の創設に繋がった大きな要因の一つだと思っております。

したがって、3点目の最後の「エール」は、皆さん、お父さま方が、後援会、保護者研究会活動の「主役」だということを申し上げたいと思います。

2020年に会長にご指名頂いた時、私は、創立100周年に向けて、「行動する後援会」を目指そう、という旗を掲げました。

雙葉ファミリーになられた皆さま方、言葉を替えれば、皆さまのご家庭の一部となるこの学園の教育環境の飛躍的向上や、更なる雙葉らしさを目指して、それを担う「主役」として、また、「雙葉ファミリーの中心」として「主体的・積極的に」、後援会や保護者研究会の活動に参画して下さることを、心よりお願いいたします。

……この点に関して、2つ付言します。

①一つは、今から18年後の「創立100周年記念事業」、中でも、校舎の建替え事業は、皆さんのお子さんが在学中に、平行して企画・整備を進め行くビッグプロジェクトです。学園や後援会のチャレンジに、ぜひお力を貸して頂くよう、お願い致します。

②もう一つは、後援会や保護者研究会や、学園の諸活動について、ご協力やご理解をお願いしましたが、同時に、批判的視点やご意見も大歓迎です。言わずもがなですが、教育に100点満点ということはありません。常に、更なる高みを目指して研鑽していかなければならない、これが、シスター村越が言われた、追求していくべき「人づくりの建学の精神」ということなのではないかと思っております。目指すべき雙葉とはどういうものか。これから、考えて行って頂きたいと思っております。

4. 締め括り～今日から雙葉ファミリー

以上、3点、お願いと期待を申し上げます。

今日から、皆さま方とは、小学校であれば12年、幼稚園であれば14年、そして、おそらく、その後もずっと続くであろう「長いお付き合い」が始まります。

雙葉ファミリーの一員になられた皆さま方、改めて、ご入園、ご入学、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

皆さまが、田園調布雙葉を選ばれたのは、これまでのところは、「正解」でしょう。先生方、学園の教育理念、教育環境、後援会や同窓会といった応援団も、最高レベルか、それに近いと思います。

しかし、それがこの先も続くかどうかは、分かりません。それを決めるのは、この学園の「主役」である「子ども達」と「皆さま方親御さん」と、「皆さまが中心となる、私たちの後援会」が、どれだけ、この学園を、自分たちの学園と捉え、この学園の教育理念を、深く理解し共鳴し実践していくかにかかっています。

ですので、皆さま方、どうぞ、「お子様方と学園をしっかりと支えなければならぬ、この後援会と、ご一緒に共に歩んで行って下さい。」

ご入園、ご入学、おめでとうございます。